根室地域（歯舞地区）マリンビジョン

～最東端の海からのメッセージ～

水産物の安定供給基盤・体制の確保 | 環境・生態系保全とグリーン社会の構築 | 安全安心な漁業地域づくり | 漁村地域の総合的な振興

■地域マリンビジョン協議会

【メンバー構成】
- ○地域住民・地区町連絡協議会、小中学校、漁港愛護会
- ○商工・観光関係者・地元企業、観光協会、旅館組合、物産協会、商店街、観光研究会
- ○農業関係者・農協、酪農家、農協女性部
- ○環境関係者・郵便局、信金、建設協会
- ○人材育成関係者・商工会議所、青年会議所
- ○水産関係者・漁協、各漁業部会、水産協会、昆布流通業界
- ○行政機関等

●基礎データ

地域人口：1,752人（627世帯）（R6値）
漁業生産量：24,528t（R6値）
漁業生産額：9,254百万円（R6値）
漁港：歯舞漁港（第4種）
〔歯舞・琶瑤瑁・温根元地区〕
友知・沖根婦・トーサムポロ漁港（第1種）

≪令和７年３月改訂≫

地域の将来像

テーマ：海業を核とした漁村地域づくり

水産物の安定供給基盤・体制の確保	・高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築 ・養殖事業を見据えた持続的漁業生産体制の確立 ・スマート水産業の推進及び水産流通の適正化

- 販売力の強化及び付加価値向上
- 海面・陸上養殖事業の構築
- 漁業担い手の確保

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	・沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり ・漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進 ・水産系廃棄物等のリサイクルの推進

- 鉄鋼スラグを活用した昆布漁場の再生
- 漁港環境の整備（桜の植樹）
- 廃棄処分される海藻類の二次利用

安全安心な漁業地域づくり	・増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化 ・ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築 ・災害時における水産物流通機能の確保

- 災害（高潮・津波）リスク対策の強化
- 防災・減災対策の強化
- ＢＣＰ計画に基づく訓練の実施

漁村地域の総合的な振興	・海業振興による地域資源を活かした新産業の創出 ・地域振興を担う人づくり ・多様な連携による地域振興

- 渚泊の推進による滞在型観光の実現
- 地域水産物を活用した受入体制の構築

地域全体

現状	課題
・人口が減少し、少子高齢化が進行 ・漁業者、漁業担い手が減少傾向 ・主要魚種が不漁 ・高潮被害が頻発化 ・宿泊施設及び飲食店が不足	・歯舞水産物の付加価値向上 ・漁業担い手の確保 ・昆布資源の安定的な確保 ・災害（高潮・津波）対策の強化 ・交流人口の増加

【位置図】

【歯舞漁港（温根元地区）】

【歯舞漁港（歯舞地区）】

【歯舞漁港（琶瑤瑁地区）】

地域資源（特徴）

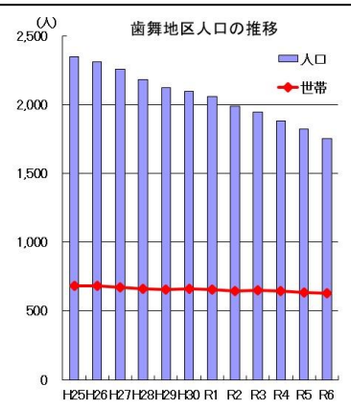
納沙布岬と貝殻島

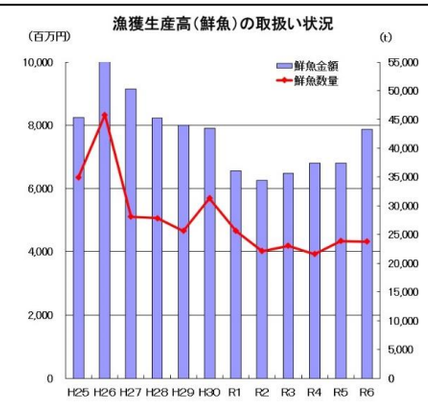
人工地盤道路・歯舞漁協施設

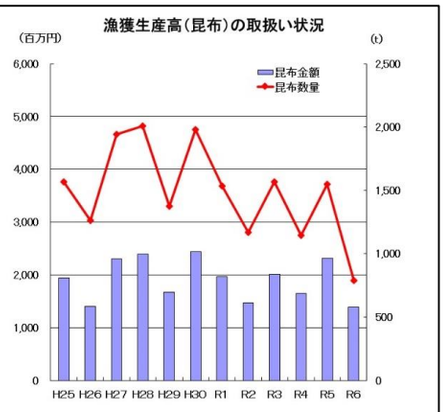
パノラマ・クルーズ（本土最東端）

四季折々に水揚げされる水産物

《その他》
- 歯舞こんぶ祭り
- 日本一遅く咲く桜並木
- あさり潮干狩り
- 歯舞湿原（根室市天然記念物）
- トーサムポロ沼
- 北方原生花園
- 流氷の接岸
- 霧の発生　等







水産物の安定供給基盤・体制の確保

【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】
【養殖事業を見据えた持続的漁業生産体制の確立】
【スマート水産業の推進及び水産流通の適正化】

根室地域（歯舞地区）マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保

現状

・北海道で唯一「優良衛生品質管理市場・漁港」の認定がされている。
・衛生管理施設には屋根付きの岸壁と清浄海水導入施設が完備し、衛生管理マニュアルが作成され、常に最適な衛生管理体制を維持。
・定期的に衛生管理講習会を開催し、衛生知識・技術を習得。
・多種多様な魚種の水揚げにより他地区と比べると生産力は高いが、主力魚種の水揚げの低迷により、近年の水揚げは右肩下がりとなっている。
・歯舞の水産物の知名度や価値を上げるため、各漁業部会がブランド化に取り組んでいるが、まだまだ知名度は低い。
・地形の影響で波が高くなることが多い海域であり、流氷の接岸もあることから、養殖施設設置後の維持が困難であり、海面での養殖事業に不利な地域である。
・人口の減少に伴い、少子高齢化が進行し漁業者（組合員）・担い手（後継者、丘作業員）が減少傾向である。

課題

・販売力強化及び歯舞産水産物の付加価値向上
・漁家収入の安定化
・養殖事業の構築（漁港水域内または陸上）
・漁業担い手の確保

衛生管理型市場（全体）

・令和４年８月より供用開始

衛生管理型市場（荷捌室）

・鮮魚を搬入する様子

優良衛生品質管理市場・漁港認定

・令和５年１２月取得
・令和６年１２月更新

衛生管理画面

・タブレットでのチェック管理

推　進　方　策

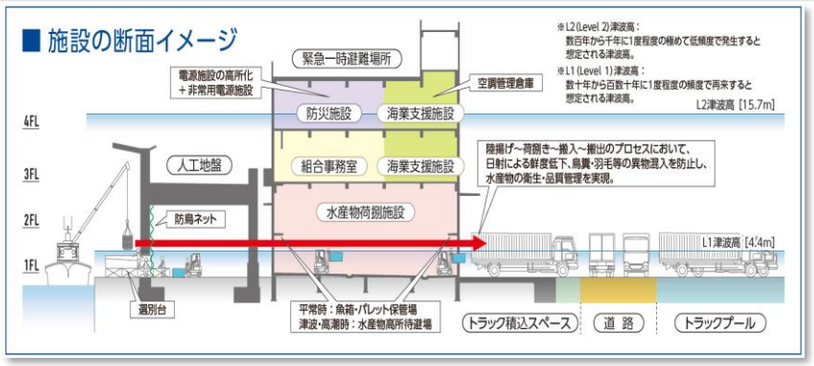
取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
販売力の強化及び付加価値向上	主体：歯舞漁協、関係者	短期：都市圏における流通調査 中期：トレーサビリティー魚種（アサリ・ホッキ等）の増加、「優良衛生品質管理市場・漁港」認定を活かし、根室市内の買受人と連携し付加価値向上への取組 長期：専門職員の起用による歯舞産水産物ＰＲ活動の強化	・歯舞漁協直販所及びネット販売の売上高の増（５%）
海面・陸上養殖事業の構築	主体：歯舞漁協、根室市、関係者	短期：養殖事業の実施について検討（対象魚種（ウニ）・施設規模の設定） 中期：小規模試験養殖の実施、生産目標の設定、採算性の向上に向けた検討 長期：海面・陸上養殖の事業化	・生産量　５ｔ/年 ・生産額　１０百万円/年
水福連携の取組	主体：歯舞漁協、根室市、関係者	短期：水福連携に向けた取組方策の検討 中期：福祉施設と連携した受入体制の構築 長期：昆布漁業等における受入開始	・受入人数１０人（１０年後）

各漁業部会のブランド化（一部会一品）

歯舞漁協　直販所

仲買人や漁港関係者も含めた衛生管理講習会の様子

陸揚げ～荷捌き～搬入～搬出の一連のプロセスにおいて
日射による鮮度低下、鳥糞・羽毛等の異物混入を防止し、水産物の品質を管理



環境・生態系保全とグリーン社会の構築

【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】
【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】
【水産系廃棄物等のリサイクルの推進】

根室地域（歯舞地区）
マリンビジョン

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

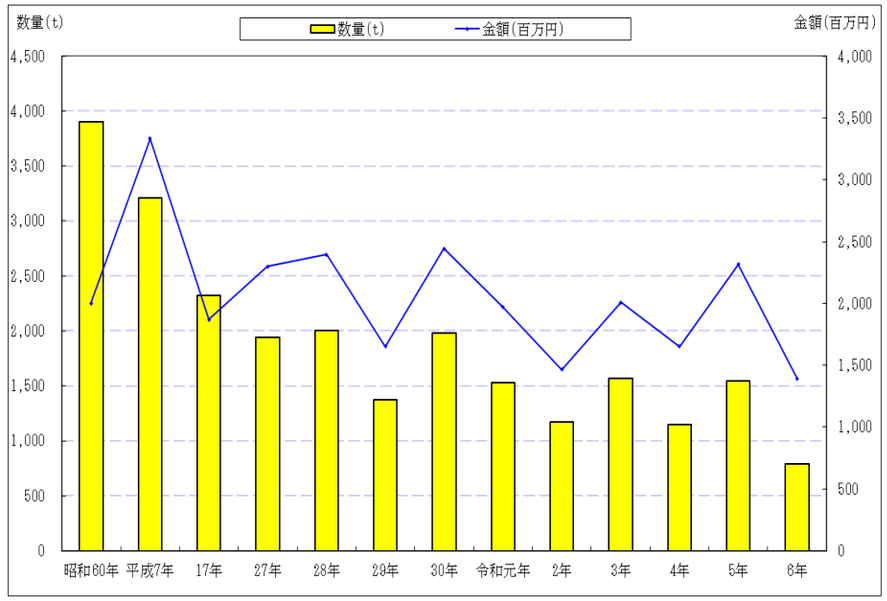
現状

- 天然昆布資源に恵まれるも、海水温の上昇や流氷の接岸により不安定な生産状況となり、令和６年度の生産量は過去最低の水準となっており、安定的に昆布を生産するため、自然環境に耐えられる昆布資源の構築が求められ、現在取り組んでいる雑海藻駆除のほかに、新たな対策を講じる必要がある。
- 海流の速さや地形から、養殖業には不適な漁場環境となっているため、天然資源に頼らざるを得ない。
- 組合員の約7割が昆布漁業に従事し、毎年、雑海藻駆除を実施するなど、漁場の造成と保全に高い意識を持って取り組んでいる。
- 我が国全体でカーボンニュートラルを推進する動きがあり、漁港・漁村地域においてもカーボンニュートラルに向けた対応が必要。
- 漁港環境の整備とイメージアップを目指し、平成１９年度より桜の植樹を実施。
- 昆布の根の有効活用と資源の付加価値化として、廃棄されていた昆布の根を農家と協力し、畑の肥料として活用しているが、昆布の生産状況が不安定なことから体制の確立が困難である。また漁業者が廃棄処理を行う場合、処理費用に加え廃棄作業を伴うことから、業者の協力が必要となっている。

課題

- 昆布資源の安定確保（鉄鋼スラグの投入）
- ブルーカーボンの推進
- 漁港環境の整備
- 海洋廃棄物（昆布の根）処理についての体制整備構築

歯舞地区昆布生産状況



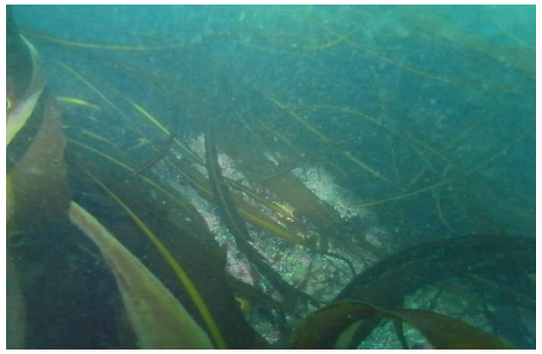
・自然環境の影響により好不漁を繰り返し、資源は減少傾向

推　進　方　策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
鉄鋼スラグを活用した昆布漁場の再生	主体：歯舞漁協・根室市・民間事業者	短期：鉄鋼スラグを活用した昆布漁場の再生計画立案、及び、実証試験の実施 中期：鉄鋼スラグによる昆布資源の回復 長期：昆布のみならず、ウニ漁業・ふのり漁業等の資源増大に向けた取組、ブルーカーボンクレジットの取得	・１０年後に昆布漁獲量５％増を目指す ・１０年後までにブルーカーボンクレジット認証の取得
漁港環境の整備（桜の植樹）	主体：歯舞漁協・根室市・民間事業者	短・中期：人工地盤道路の横へ桜の植樹を実施 長期：「日本一遅く咲く桜並木」として観光資源化を検討	・年間１～３本　植樹
廃棄処分される海藻類の二次利用	主体：歯舞漁協・農協・農家	短期：昆布の根を中心とした海洋廃棄物を肥料として農家へ提供 中期：昆布資源の回復・安定による供給数量の確保 長期：安定した供給体制の確立による収益化	・2円/kgでの販売（可燃ゴミで処分した場合の費用1.6円/kgに対し、同額程度の収益を確保）

海底（歯舞地区）

海底（歯舞地区）



流氷接岸風景

雑海藻駆除風景

安全・安心な漁業地域づくり

【増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化】
【ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築】
【災害時における水産物流通機能の確保】

根室地域（歯舞地区）マリンビジョン

安全・安心な漁業地域づくり

現状

・根室市は「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域」に指定されており、地震に強い防災対策として、歯舞漁港の主要な陸揚げ岸壁を耐震強化岸壁として整備。
・平成２６年１２月の爆弾低気圧等により高潮被害が発生。
・防災・減災機能を備えた施設（歯舞漁協事務所）が整備され、災害時には人工地盤を活用して背後の高台に避難が可能。
・非常用電源が配備され、非常時における電気の供給が可能であり、施設の機能が維持される。
・沿岸漁業者安全情報支援システムの構築により、漁業操業時においても地震・津波等の情報を一早く取得でき、避難が可能となったが、避難ルール等が確立されていないため、ルールの策定が必要。

課題

・高潮対策の強化
・津波対策の強化
・災害時避難体制の構築
・ＢＣＰの実効性確保

・高潮により、漁船保管施設用地の土壌が冠水。

・災害時に停電となった場合においても電力の供給が可能となる。

・昆布漁船に積載している防災サイレンと本体。

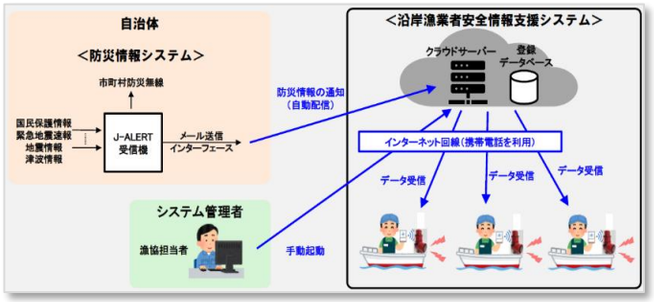
推　進　方　策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
高潮対策の強化 （漁船保管施設用地の嵩上げ）	主体：歯舞漁協・根室市・北海道開発局（釧路開発建設部）	短期：高潮リスクの特定・分析・評価、施設整備計画の立案 中・長期：漁船保管施設用地の嵩上げ・施設整備の実施	・高潮被害ゼロを目指す
津波対策の強化 （昆布倉庫移転）	主体：歯舞漁協・根室市・関係者	短期：津波リスクの特定・分析・評価、施設整備計画の立案 中・長期：高台への施設移転の実施	・昆布製品被害ゼロを目指す
防災・減災対策の強化 （避難ルールの策定・運用）	主体：歯舞漁協・根室市・関係者	短期：沿岸漁業者安全情報支援システムを活用した避難ルールの立案 中期：陸域・海域避難時における講習会を開催 長期：避難ルールに基づく訓練の実施	・避難時間の短縮を目指す
ＢＣＰ計画に基づく訓練の実施	主体：歯舞漁協、根室市・関係者	短期：防災対策協議会の開催 中期：机上訓練の実施 長期：ＢＣＰ計画の見直し	・漁業活動の早期再開を目指す

沿岸漁業者安全情報支援システムが「第27回防災まちづくり大賞」にて表彰

避難経路としての機能を有する人工地盤・アクセス道路

沿岸漁業者安全情報支援システムの仕組み。インターネット回線を利用して、沿岸漁業者の安全操業を目指している。



漁村地域の総合的な振興

【海業振興による地域資源を活かした新産業の創出】
【地域振興を担う人づくり】
【多様な連携による地域振興】

根室地域（歯舞地区）マリンビジョン

漁村地域の総合的な振興

現状

・観光客は納沙布岬を目的地として、直接向かうため、歯舞地区へはパノラマ・クルーズの乗客以外は、立ち寄りが少ない。

・根室市全体として、宿泊施設や食堂・商業施設が少なく、観光客が長時間滞在するには不便。尚、歯舞地区においても同様であり、食堂は１店舗のみである。

・パノラマ・クルーズは、天候の影響を受けるため、乗船予約者の約半数はキャンセルとなっている。

・地域や施設の魅力を広く伝えるための効果的な宣伝が出来ていない。

課題

・通過型観光から滞在型観光への改善

・歯舞産水産物を提供する飲食場所の確保

・歯舞地区における宿泊機能の確保

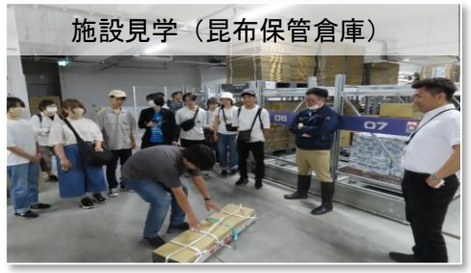
・悪天候時において体験可能なプランの構築

・情報発信体制の強化

施設見学（荷捌所）

施設見学（直売所）

施設見学（昆布保管倉庫）



・修学旅行生・ツアー客等を対象に鮮魚や昆布の説明を実施。

漁船員厚生センター

漁船員厚生センター

日本最東端の銭湯「舞の湯」

・観光客の宿泊を想定し、既存の漁船員厚生センターの改修・再構築を検討。

推　進　方　策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
歯舞市場食堂の運営	主体：歯舞漁協・根室市	短期：他地区の漁協が運営している施設を視察、現在の漁協食堂を利用し市場食堂としての事業拡充を検討 中期：市場食堂の運営に向けた試験営業 長期：市場食堂の継続的な運営	・来客数1,000人/年
宿泊施設の確保	主体：歯舞漁協・根室市・関係者	短期：他地区の漁協が運営している施設を視察、宿泊施設（漁船員厚生センター）の改修・受入計画の検討 中期：宿泊施設（漁船員厚生センター）の改修計画立案 長期：宿泊施設（漁船員厚生センター）の改修、修学旅行・研修旅行等の受入、外国人観光客の受け入れ	・来客数1,200人/年 内分け）修学旅行生300人 領対関係100人 観光客360人 漁船員440人
SNSによる情報発信（PR活動）	主体：歯舞漁協・関係者	短期：歯舞地区の取り組みを定期的に情報発信する体制（専門職員の起用）の検討 中・長期：歯舞地区の取り組みを定期的に情報発信	・閲覧数120,000回/年
天候に左右されない体験プランの実施	主体：歯舞漁協・農協・根室市・観光協会・関係者	短期：歯舞地区として、漁業のみならず農業・酪農・観光協会等と連携し多様な体験プラン構築を目指し検討 中期：試験的な体験プラン（モニターツアー）の実施 長期：修学旅行生やツアー客を対象にした継続的な受入の実施	・受入数1,000人/年

SNSでの情報発信
（Fb･Instagram）

修学旅行生へ朝食提供の様子。

地元の漁業者宅へショートステイ
（こんぶ漁業を学ぶ渚泊の推進）

北方領土の歴史について学ぶ水産学習